

災害リスク評価コンサルティングサービスおよび BCP 策定支援 導入事例



株式会社扇島パワー 様



「的確な『災害リスク評価』で、
起こりうる被害をリアルに認識。
実効性のあるBCP策定に結びつきました」

株式会社扇島パワー
(右から) 副所長 兼 環境保安室長 一宮 弘司氏、環境保安室担当マネージャー 秋元 満氏

火力発電所「扇島パワーステーション」を運営する株式会社扇島パワー（発電所、企業ともに横浜市鶴見区）は、2017年4月から、構造計画研究所と森総合研究所が提供するコンサルティングサービスに基づくBCP（Business Continuity Plan＝事業継続計画）の運用を開始した。本BCP策定プロジェクトの評価について、同発電所副所長兼環境保安室長の一宮弘司氏、環境保安室担当マネージャーの秋元満氏にうかがった。

東日本大震災の経験を踏まえて

一 発電所の概要を教えてください

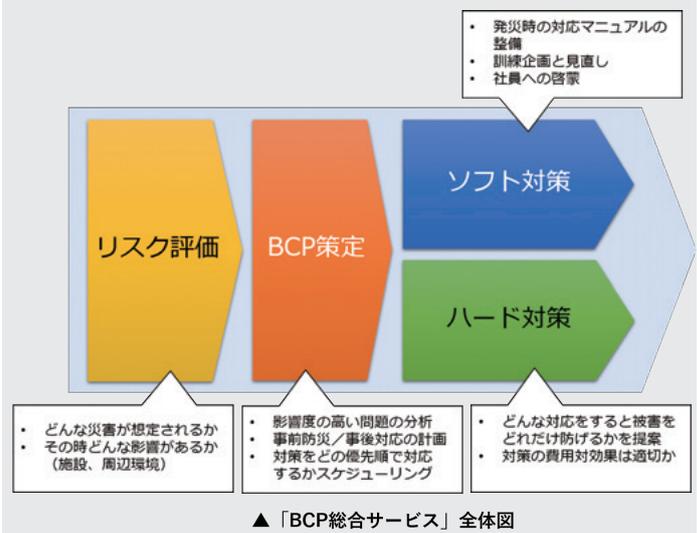
当扇島パワーステーションは、東京ガス株式会社と昭和シェル石油株式会社が共同出資する大型LNG火力発電所です。LNG（液化天然ガス）を燃料に、ガスタービン・コンバインドサイクル発電という省エネルギー性に優れた発電を行っています。現在、3基が稼働し、一般家庭200万世帯分の電力を供給。社員は、両出資会社からの出向者が中心で、常駐社員は20名弱の体制です。（一宮氏）

一 BCP導入を構想したのは、どのような経緯だったのでしょうか

私は、2015年4月より環境保安を担当する副所長に就任しました。前職では、東日本大震災による地震や津波による被害を目の当たりにした経験があります。非常に新しい発電所であるが故に「このままでは危ない」という思いを持っていました。

BCP策定の必要性は着任当初から感じていたため、やるからには形だけではなく、実効性のあるものにする必要があると考え、「2016年度中に、地震と津波に関する実効的なBCPを策定する」という案をまとめました。2015年度末に、所長以下、管理職に提起し、本格的にBCP策定プロジェクトがスタートしました。（一宮氏）

「BCP総合サービス」は、構造設計／構造解析で多くの実績があるKKEと、豊富なBCP策定経験がある森総合研究所（以下、森総研）が共同で提案するBCP策定コンサルティングサービスです。



BCP策定には、ソフト・ハード
両面の考察が必要

一 KKE／森総研のサービスをお選びいただいた理由は何ですか？

実は当初、当社社員だけで策定しようと考えていました。しかし、KKEの丁寧な説明を聞くうちに、プロに必要なサポートを受けることは、実効性のあるBCPを構築するうえでも、また、社員の検討に要する時間を大幅に節約できるという点からも、非常に効果的であることに気づきました。

KKEに依頼した決め手は、電力業界に高い実績を持ち、かつ電力設備の構造や耐震設計といった領域に詳しくあったこと。加えて、共同提案して頂いた森総研様が、行政や民間企業において実際に数多くのBCP策定に携わり、貴重な知見を積み重ねていたことです。

他社からも話を聞きましたが、我々が考えるBCPの目的に照らした時に、ルール・行動基準といったソフト面と、設備的な対策といったハード面の双方を支援頂けるKKEの提案が私たちにはベストだと判断しました。(一宮氏)

災害リスク評価の結果、 安心感が高まった

— KKEの「災害リスク評価」を行ってから、実際のBCP策定という手順を踏まれました

首都圏直下型地震が発生した時に、実際にこの扇島地区がどれだけ揺れて、建物や設備、機器がどの程度のダメージを受ける可能性があるのか——客観的な「災害リスク評価」の結果を聞いて、少し安心しました。予想される被害の程度が想定範囲内だったからです。その根拠を欠いた提案を受け取っていたら、ソフト面の策定計画に悪影響を及ぼしていたでしょう。(秋元氏)

BCP自体は私たちが主体となって構築していくべきであり、同時にその作業を通じて、プロジェクトのメンバーに経営的な視点を養ってもらいたかったのです。意識して若手を起用したのはそういう意味がありましたし、社内にBCPを根付かせるために、トップダウンだけでなく、ボトムアップも加えて相乗効果を狙っていました。(一宮氏)

時間をかけて検討しているうちに、「扇島パワーの中には、こんなリスクがあるんじゃないか」という問題意識が各自に芽生え、チームの共通認識になっていきました。そのようなタイミングで、KKEの「災害リスク評価」の結果がはっきり示されたことで、「だったら、具体的にどんな対策が必要なのか」という方向に、自然に議論が進んでいきました。森総研様のリードもあって、各チームメンバーが自発的に「どうしたらいいのか」を考え、議論する中でメンバーも成長できたと感じています。(秋元氏)

運用管理が継続される体制を より堅固に

— 今年度から始まったBCPの運用は、どのような体制で臨んでいるのでしょうか

策定したBCPに問題がないかを議論するマネジメントレビューを3ヵ月に1回開いているほか、必要に応じてスポットで会議招集しています。従来から実施してきた避難訓練や防災教育プランニング・実行などについても、この“会議体”が中心になって回しています。(秋元氏)

— ここまでを振り返っての感想をお聞かせください

BCP策定は経営戦略であるためトップダウンでスタートすることが多いと思いますが、KKEと森総研様に、2016年4月から着任した沖野社長にトップヒアリングで率直な意見を聞き出して頂いたこともよかったですね。トップと私たち担当部署が考えている方向性が合致していることが分かり、早期に全社一丸のプロジェクトとしてスタートすることができましたから。(一宮氏)

— 今後の目標やKKEへのご感想・ご要望をお聞かせください

運用が始まったとはいえ、まだ完全に軌道に乗ったわけではありません。チーム会議などを通じて、より完成度を高めていきたいです。(秋元氏)

たとえメンバーが入れ替わっても、きちんと運用管理が継続される体制づくりが今後重要だと考えています。私たち電力会社は、地震を含めた自然災害などの際に必要とされる会社の一つだと思います。その供給責任を全うできるように、これからも“災害・リスクに強い企業”を目指していきます。(一宮氏)

取材日：2017年7月

株式会社扇島パワーについて

■ 設立：2003年8月 ■ 本社所在地：神奈川県横浜市鶴見区 ■ ホームページ：www.showa-shell.co.jp/businesssolution/power/lng.html
(※昭和シェル石油株式会社様 公式WEBサイト内)

フルインタビューの内容は Web からご覧いただけます ▶ www.kke.co.jp/solution/casestudy/Ohgishima_Power.html

※本インタビュー内容は全て取材日時点の情報に基づくものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。

この事例に関するお問い合わせ



株式会社構造計画研究所
新領域企画マーケティング部

TEL | 03-5342-1139
E-Mail | bcp@kke.co.jp

Web | www.kke.co.jp/bcp/

• この事例で使われているソリューション •

災害リスク評価
コンサルティング



※記載されている製品名および会社名は各社の商標又は登録商標です。